

シャドーイング を活用する Reading Class （実践報告）

大野純子

1. はじめに

「聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の育成」に重点を置いた英語授業というものが文部省学習指導要項に明記されて以来、従来の訳読方式の授業とは異なる様々な形式の英語授業が行われるようになってきた。その中で、近年シャドーイングという同時通訳訓練法を取り入れた授業というものも注目されつつある。シャドーイングの効果に関してはいくつか論文発表がなされているが、本稿では、実際の授業でどのように取り入れるか、特にL1教室ではない普通の教室でどのようにシャドーイングを行えるか、又それに関して学生達自身がどのように感じているかをまとめてみたいと思う。

2. 用語説明

- ▶ シャドーイング (shadowing): 聞こえてくるスピーチに対してほぼ同時に或いは一定の間隔を置いてそのスピーチと同じ発話を口頭で再生する行為のこと
- ▶ プロソディ・シャドーイング (prosody shadowing): 正確な音の復唱を目的として英語の音声的な要素（強勢・高さ・速さ・リズム・イントネーション・ポーズ等）のみに注意を向けて発話を再現しようとするシャドーイング。出来るだけ忠実に元の音の再現を目指すことにより、学習者たちは自然に英語の弱形などを習得していく。
- ▶ コンテンツ・シャドーイング (contents shadowing): 聞くスピーチの内容の把握に注意を向けて、発話内容を再現しようとするシャドーイング。
- ▶ シンクロ・リーディング (synchronized reading): 音声を聞きながら同時

にテキストを音読すること。スピーチに遅れずについて読めるようになるには、自然に native の音声的特徴を模倣することになる。パラレル・リーディングとも言う。

- ▶ スラッシュ・リーディング (slash reading): テキストを読む際に、意味構造の切れ目ごとにスラッシュ (/) を入れながら読むこと。意味の固まりを英語の流れに沿ってつかむことにより、英語を英語の語順のまままで理解するのに役立つ。
- ▶ リテンション (retention): スピーチを一定の長さまで聞いた後すぐに、聞いた英語を完全に再現すること。意味の固まり単位、或いは節単位、文単位で行う。聞いた英語をいったん記憶にとどめなければならない分、負荷の高い練習方法とも言えるが、再現者の文法、構文力などが如実に現れるので、シャドーイングとは異なる効果がある。リピーティングとも言う。

3. 実際の授業の流れ

教材: ここ数年、朝日出版社発行の *English for the Global Age with CNN International* を使用している。この教科書には、実際の CNN ニュースのビデオと音声のテープ及び CD が添付されてくる。テープ (及び CD) には、ニュース同時録音、即ち **natural speed version** とテキストを native が教材用としてもっとはつきり読み直した **slower version** の二種類が録音されている。通常の授業時には **natural speed** のシャドーイングは行う時間はないので、この **slower version** が役立っている。

初回授業: 学生たちは授業登録まで2週間ほど猶予が有り、最近では、その期間中に語学の授業も自分の意思で選択出来るようになった。指定クラスはあっても、シラバスを読んだり先輩等の情報からそれ以外の授業に変わる学生も多い。

まず、一回目の授業で、学生たちの心構えを問うために、筆者が英語のシャドーイングを一度モデルしてみせる。この瞬間、吃驚仰天して何とか別のクラスに変わる言い訳を考えだす学生たちも毎年数名いるが、続いて学生達自身に日本語でシャドーイングをさせる。例えば、一人の学生にその日の出来事を日本語で話させ、隣の学生にその場でシャドーイングを日本語で行わせる。あら、不思議!? 日本語だと出来るのである。そしてその後「必ず全員が英語でも出来るようになるし、一年を通じて行えばそれまで聞こえなかった英語の音も聞こえてくるようになる」と説明する。

英語のシャドーイングが難しいと感じる理由は大きく分けて三つあるこ

とも説明する。第一は、人間は通常人の話は黙って聞いている。聞いているときに音声を発するという行為自体がとても不自然なものである故、それを行う事に強い心理的抵抗があるという事。そこを乗り越えるには3～4回の授業回数もあれば必ず何とかなる事を話す。

第二は、英語の発話を理解する時には、日本語の発話を理解するのより、高い集中力を必要とするのに、そこでシャドーイングをすると理解が損なわれるのではないかという不安が生じるという面。これは音声面と内容面を分けてシャドーイングをすることにより解消されることを説明する。即ち、プロソディ・シャドーイングとコンテンツ・シャドーイングは別物であることを強調し、別々に練習を重ねることを話す。

第三は、英語の音をそのまま繰り返せるかどうかの不安。これはシャドーイング前にシンクロ・リーディングを繰り返し行い、音声の特徴はテキストに書き込む時間が在ることを説明する。そして、英語の発音は一年を通じてシャドーイングを行えば格段に良くなり、発音が良くなるに連れてリスニングの力も伸びること、TOEICのリスニングの点数が上がることなどを話す。

最後に、各 unit 毎にこれを繰り返すと、初めは何を話しているか分からなかったCNNのニュースが、シャドーイングの後で視聴するとはっきり聞き取れるようになっていくと励ますと、興味を持ち始める学生が多い。そのような学生たちが一年間筆者の授業に付き合っていくことになる。

通常授業時： 一年の初めに添付のテープを学生にコピーし予習用として渡す。
(最近の学生はカセット再生機を持っていない場合も多く本来はMDが望ましい)

1. 最初にビデオを視聴してニュース全体の流れをつかむ。
2. 語句説明： テキストに沿って単語熟語の練習問題を解く。発音しにくい単語は全員で声に出す。
3. 穴埋め： テキストは cloze structure になっているので natural speed × 2 でテープを流し、穴埋めをさせる。答え合わせ。
4. シンクロ・リーディング： Slower version の吹き込みに合わせて通常2回程度、音読させる。意味単位の切れ目でスラッシュを入れたり、アクセントには印をつけることなどを指示。そのとき、native にとっては一語に感じられるような語句のつながり(chunk)は一語であるかのように掴んで話すように指示する。
5. 個人音読練習： 初めて発話する単語、或いは reduced form になっているつながり等、発話が自分の思っているのと違うところなどシャドーイングでつまづきそうな所は、そこだけ声を出して繰り返し読むことを指示。

6. 意味確認: 教科書は閉じた状態で、意味の固まりの単位(短い文なら一文、長い文は7~8語位まで)でテープを止め、一人にそこまでをリテンションさせる。次に隣の人にその部分の訳を言わせる。クラス全員が次々に当たることになる。訳は必ずしも綺麗な日本語である必要はなく、聞いた意味の単位を頭の中でイメージし、そのイメージを自分にとって一番自然な日本語(和語)で描写する感覚で言うことを説明する。
- 注1. リテンションという行為はシャドーイングやシンクロ・リーディングが native とほぼ同時に発話していくのに対し、時間の隔たりがある為、日本語式の発音になってしまうという批判があるが、リテンションも英語の文構造を意識させるという意味において、重要且つ必要な訓練と筆者は考えている。
- 注2. 英語を英語のまま理解させるのに、日本語訳を言わせる行為は必要ないのではないかという批判も有ろうが、「英語を聞く→イメージする→日本語でそのイメージを再現する」という行為で、結局英語を理解できているかどうか学生自身が確認できる。イメージを日本語で再現というのは、話し手のメッセージの core が掴めているかどうかによる。ポンヤリとしか理解できていないところは、結局日本語でも上手に表現できない。
7. シャドーイング: クラス全員でシャドーイング × 2回。意味は忘れプロンディにだけ集中してシャドーイングするように指示。大体3~4回目の授業時から聞きながら声が出るようになる。又、シャドーイングをさせると、その前のシンクロ・リーディングがどれほど大切だったかを認識し、音読のときも全員がしっかりと励むようになる。
8. 個人チェック: テープはズーっと流しておき、シャドーイングを一人一人次々当ててやらせる。文の途中から当てられる事もあるので、音声を発していない学生も心の中でシャドーイングをしている。上手な学生、或いは極端に下手な学生は少し長くシャドーイングさせる。半年も経つと、単なるオウム返しではなく、自分で英語を話しているような感覚が生まれてくる。
9. テスト: ①各ユニット終了後 natural speed での dictation に日本語の訳をつけさせる。(3題程度)
②ニュースの要約を英語で書かせる。ニュースで使われた文章を上手につなげただけのものでも良いと言っておく。
この二つの課題でニュースに出てくる単語・熟語は単に発音だけでなくスペリングも皆しっかりと勉強しなければならない。
10. 学期末最後の授業: 以上のやり方で前期・後期それぞれ5つぐらいのニュースを取り上げることが出来る。それら全体を通して視聴する。学期の初めに学習したユニットなど、内容は忘れてしまっている場合で

も学期末に再び視聴するときにははっきりと聞き取れるので「良く解った・すごく嬉しい」という感想が多い。勿論、一度学習した内容だから解るのであるが、そこで学んだ語句は別のニュースで出てきても聞き取れるようになっており、徐々に自分が解る語句の範囲が広がっているはずである。

1.1. 夏休み冬休みの宿題: Natural speed のシャドーイングに挑戦。100% シャドーイングを目指して。

通常の授業時では練習時間も限られているため、CNNの同時録音ではなく、native が教材用にはっきりと解りやすく吹き込んだ slower version でシャドーイングをおこなっているが、それでは本当に native の話のリズムを掴んでいるとはいえない。それ故、学生達がたっぷり練習時間の取れる長期休暇の間に natural speed のシャドーイング、そしてそれを録音して自分でチェックさせるということを宿題に課している。

教材: Native 同士の natural な会話では速すぎてとても模倣できないことも在る。従ってCNNの教材のなかにスピーチが含まれている場合はそのユニットを使用することにしてている。

方法: ①初見の録音: いきなりぶっつけ本番でシャドーイングを録音し、スクリプトと照らし合わせ出来なかったところをチェックする。チェックしながら、自分で気付いた点をスクリプトに記入させる。(弱形の発音、息継ぎの場所など)

②練習: 毎日 10 分から 15 分程度同じパラグラフをシンクロリーディング、シャドーイングなどで練習する。(3 日程度)

③中間録音: 固まりで抜けるところがなくなった時点で再び録音し、スクリプトと照らし合わせチェック。

④練習: 語尾の-s、冠詞の a、the 等、細かいところまで正確にシャドーイングが出来るように留意して練習する。(3 日程度) 授業ではここまで完璧を目指したシャドーイングは出来ないのので特に頑張るように前もって指示しておく。

⑤最終録音: ほぼ完璧にシャドーイングが出来るようになったと思った時点で録音。

丁寧にスクリプトと照合する。

以上のように一つのパラグラフ (およそ 60~70 語程度) に一週間かけて練習することを指示し、大体 3 パラグラフを宿題に課す。最終日には 3 パラグラフを通してシャドーイングし録音する。

⑥休み明けの初回授業: シャドーイング大会

録音したテープと自分の間違い・気付いたことを記入したスクリプト（各パラグラフ最低 3 枚）を提出させ、その後一人ずつ前に出て at random な部分のシャドーイング。

100%シャドーイングの成果としては、或る年にブッシュ大統領の就任演説を宿題に課した。その後の感想として「とにかくテレビでブッシュ大統領が話しているのは、すべてははっきり聞き取れるようになった」というものが多く見られた。南部訛りのある彼の英語がシャドーイングの教材として最適かどうかは別として、イラク問題などでしばしばテレビに登場する彼の生の英語が聞き取れるようになったというのは、英語学習の動機付けにはなったと思う。

100%シャドーイングを課すのはシャドーイングを単にリスニング力の向上だけでなくスピーキング力の向上にまで応用できないかと考えてのことである。授業時より精度を上げて 3 単現の -s 等まで意識してシャドーイングを繰り返すことによって、無意識のうちにそれらを発話できるようになればと考えている。

4. 学生の感想:アンケート

氏名 _____ 学籍番号 _____

1. この授業以前にシャドーイングを知っていましたか？
 1. Yes
 2. No
2. シャドーイングの説明を受けた段階で自分にもシャドーイングが英語で出来ると思いましたか？
 1. Yes
 2. 難しそうでも無理だと思った。
 3. 練習を重ねれば何とかかなりそうだと思った。
 4. その他 _____
3. 実際に経験してみて何回目の授業からついていけるようになりましたか？
 1. 初回から
 2. 2回目から
 3. 3～4回目から
 4. 5～6回目から
 5. それ以上

3. 実際に経験してみて何回目の授業からついていけるようになりましたか？
- | | |
|---------|------|
| 初回から | (3) |
| 2回目から | (0) |
| 3～4回目から | (25) |
| 5～6回目から | (9) |
| それ以上 | (5) |

4. 英語学習法としてシャドーイングは役に立つと感じますか？

Yes (41) No (1)

5. 4の質問でYesと答えた方へ どのような面で役に立つと感じますか？
(複数回答 可)

リスニング	(37)
発音	(23)
語彙学習	(4)
リーディング (英語を読むのが速くなった)	(13)
スピーキング	(17)

6. 4の質問でNoと答えた方へ そのように感じる理由をお書きください。
・もともと英語の学習が嫌いだから。

7. これまで授業を受けてきて、このクラスの良かったと思うことを2つ以上お書きください。(類似意見はまとめた)

シャドーイング関連

- ・シャドーイングに出会ったこと。 (他 3名)
- ・シャドーイングにより今まであがらなかった英語力の部分があがりそう。
- ・シャドーイングによって英語を聞く機会と話す機会が増えた。
- ・自ら進んではシャドーイングは出来なかったのをそれを授業で取り上げて貰えたこと。

リスニング力関連

- ・リスニングをする力がついた。 (他 5名)
- ・速いスピードの英語に慣れた。
- ・今まで全然分からなかったリスニングがある程度聞き取れるようになった。
- ・映画の英語が多少聞き取れるようになったこと。
- ・予習の段階でテープを聴いて、テストのためにも聞くので英語に触れる機会が多い。
- ・英語の聞き方が分かること。
- ・ニュースの英語が早口なので映画を見てゆっくりに感じるようになった。
- ・集中して聞こうとする態度が身についた。

発話力関連

- ・以前に比べれば、英語が口から出てきやすくなった。
- ・英語をたくさん口に出すので、イントネーションとかを覚えられた。
- ・英語を声に出すことになった。

語彙力

- ・普段使わなくて覚える機会のない単語を知ることが出来た。
- ・語彙力が少しついた。

全般的な英語力

- ・英語力が実際に上がった気がする。
- ・実力がつくと感じる。
- ・前より英語の意味を大まかに掴むようになった。
- ・CNNの普通のニュースを何度も聞いて練習していくと何を言っているのかが徐々に分かっていくようになるのが楽しい。

テストについて

- ・小テスト制なので学期末に大きな試験がない。(他 2名)
- ・單元ごとにテストをやるので身につく。

学習態度など

- ・予習を必ずする。(他 6名)
- ・ほぼ毎日カセットを聞こうと思うようになった。(他 2名)
- ・映画を見ていても字幕を読むだけでなく耳で聴こうとするようになった。
- ・CNNのニュースに興味をわいて自宅でも見るようになった。
- ・英語の授業に真面目に取り組むようになった。
- ・英語を自分なりに勉強するようになった。

教材関連

- ・教科書の内容が面白い。
- ・VTRではあるがアメリカのニュースを見ることが出来た。
- ・海外のニュースを題材にしているのが良い。
- ・CNNがためになる。
- ・映像と音声が同時に見聞きできる授業。
- ・CNNのナチュラルな英語に触れられた。
- ・高校のときと比べ実践的な英語を扱っている。

授業の進め方など

- ・授業の流れがスムーズなところ。
- ・授業の進度がよく、怠ける気が起きない。
- ・授業がてきぱき進む。
- ・緊張感があり授業をするという環境が整っている。

- ・全員が授業に参加できていること。
- ・常に声を出して取り組む授業なので飽きない。
- ・英語を聞くことを重視しているところ。
- ・ただ聞き流すということが実質不可能なところ。
- ・授業が静か。
- ・人数が少なく集中しやすい。
- ・英語の学習法を知ることが出来た。
- ・シャドーイングがあるので授業中に寝ることが出来ない。(他 2名)
- ・緊張感のあるところ。
- ・クラスの雰囲気が良いので気軽に自分の意見が発言できる。
- ・たのしい。
- ・微妙にやりがいがあった。

その他

- ・あまり難解な読解をさせないこと。
- ・皆のレベルが高いので、自分も頑張らねばと思った。
- ・友達が出来た。
- ・先生が英語を話せること。
- ・先生がさわやか。
- ・先生が明るいのでたのしい。

8. これまで授業を受けてきて、改善して欲しいと思うことを2つ以上お書きください。

- ・和訳に時間をとりすぎ。
- ・和訳をもっと丁寧に。(他 2名)
- ・日本語を使わない授業。
- ・テストが難しすぎる。(他 1名)
- ・テストの回数を減らして欲しい。(他 1名)
- ・テストの回数を増やして欲しい。
- ・テープからMDに。
- ・もう少しゆっくり授業を進めて欲しい。(他 6名)
- ・一人ずつ当てる前にもっとシャドーイングの練習をしたい。(他 1名)
- ・他の人がシャドーイングをしているときに待つ時間が長い。
- ・自分の声を録音したい。
- ・予習復習が必要。
- ・緊張する。(他 1名)
- ・難易度がUnitによって異なる。
- ・採点は甘くして欲しい。
- ・あたる回数が多すぎる。
- ・生徒間のやり取りがない。

- ・課題の説明が分かりにくいことがある。
 - ・テキストだけでなく他の事も取り入れて欲しい。
 - ・板書をもっと丁寧にしてほしい。
9. 今後あなた自身が英語の勉強のためにどういうことをしたら良いと思っていますか。
- ・語彙数を増やす。
 - ・もっと英語を聴く。(ラジオ・テレビの二カ国語放送など)
 - ・英語を声に出して読む。
 - ・英語の歌などからもっと英語に触れる。
 - ・英語の映画を英語字幕で見る。
 - ・英字新聞など英語をもっと読む。
 - ・シャドーイングを自宅でもする。
 - ・Native speaker と友達になる。
 - ・英語を好きになること。
 - ・海外に行って自分の英語力のなさを痛感すること。

5. シャドーイングに対する批判

シャドーイングは parrotting に過ぎず、言語の creative な面を無視しているという批判が在る。しかし第二言語が自在に操れ、次々に自分で英語の文を generate できるようになるには、相当量の input が必要である。例えば言語習得の上でリスニングの重要性を特に強調している Krashen がその根拠の例としてあげている逸話、ある日、英語主体の環境に放り込まれた六歳の子供が六ヵ月後には突然話せるようになったという事例は、英語が foreign language である日本での英語学習とはまるで異なる環境においての話である。しかも critical period を過ぎていると思われる日本で英語を学んでいる大学生には、恣意的なリスニングというものの必要性を感じる。シャドーイングは漠然と聞いているのではなく、聞いたものをほぼ同時に口に出すというかなり負荷のかかる集中力を必要としている行為であり、同じ時間を漠然としたリスニングに割くより、リスニング力の向上は早いと思う。

又、初めて知る単語、或いは一語のように固まりで話される句(chunk)は、シャドーイングをする際すっぽり抜けやすく、そこで躓いて先に進めないという経験を学生たちは味わう。従って全体の流れのなかで遅れないようにするために、それだけを繰り返し発話練習する必要性を、学習者自身が感じる。この練習で学生たちの passive vocabulary が active なものにかわり、active vocabulary の増加が徐々に speaking 力の向上へと繋がると思

う。ニュースを題材にすることによって、またそれを要約したりすることによって、学生の active vocabulary が個人的なものからより大学生にふさわしい社会的なものに広がっていくことを願っている。

テープにはもともと natural speed と slower version の二種類の吹込みが録音されているが、それぞれに有効であると感じている。Slower version のシャドーイングで冠詞なども抜けないように正確性を目指し、natural speed のシャドーイングで全体のリズムを掴む、というようなことを学生たちは自然に行っているようだ。Natural speed のシャドーイングで native のスピードについていくには、文強勢を受ける単語だけをはっきり発音し、他の母音は曖昧母音のように発音する、或いはアクセントの在る単語を発音するときには母音にだけ注意を払うのではなく、母音の前の子音を発音するときには息をもっと使うなどと言う事は、筆者が数回口頭で説明すれば、回数を経るに従って自然に体得できていくように感じる。

6. おわりに

Natural speed での発話が natural speed のリスニングには役立つと感じていたので、以前は英語映画のアフレコなどを授業で行っていた。しかしアフレコをするには練習・録音なども含めて、LL 教室が必要であった。普通の reading の教室でシャドーイングを取り入れ、英語を英語の語順で理解し、reading のスピードを速め、リスニング力の向上を目指し、ひいては TOEIC・TOEFL 等の資格試験に役立つようにならないかと考えたのが今の授業形式である。とにかく毎授業時、数回当たるので、緊張感が抜けず、皆集中して授業を受けているようであるし、シャドーイングは回数を重ねるごとに自分が上手くなっているのを自分自身で実感できる行為なので、積極的に取り組んでいるように感じる。

ただ、reading のクラスなのに、ほとんど訳読に時間を割いていない。リテンションの後に、意味の固まりを頭から日本語で言わせているだけであり、綺麗な日本語訳というものは一切行っていない。最近の学生は数年前の学生に比べて、精読の力も弱くなっており、関係節が二つぐらい含まれる複文などどこから解読したらよいのか分からない学生もいる。各ユニット終了後のディクテーションと和訳のテストの結果に唖然とさせられることもしばしばあるので、もっと丁寧に読みをやる必要もあるのではないかと考えさせられる。

LL 教室でシャドーイングを行えば毎回録音して自分のシャドーイングをチェックできるという利点はあろうが、以上の手順を踏まえば通常の教室でもシャドーイングを取り入れた授業が出来、そしてそれなりの充実

感を学生達自身が味わっているようである。これからもより活発な授業を目指していろいろな授業形式を試みたいと考えているので、皆さんの忌憚のないご意見を是非お伺いしたい。

参考文献

- 門田修平他 (2004) 『決定版 英語シャドーイング』 コスモピア.
- 国井信一他 (2001) 『究極の英語学習法 K/Hシステム』 アルク.
- 篠田顕子他 (2000) 『英語リスニング・クリニック』 研究社.
- 根間弘海 (1998) 「シャドーイングと逐次通訳による英語のLL授業」 専修大学LL研究室ワークショップ発表論集 第1号、pp.1~8.
- 根間弘海 (1999) 「シャドーイングと逐次通訳:その実践報告」 専修大学外国語教育論集 第27号、pp.51~88.
- Brown, H. Douglas. (2000) *Principles of Language Learning and Teaching*. 4th ed. New York: Longman.
- Ellis, Rod. (1985) *Understanding Second Language Acquisition*. Oxford: Oxford University Press.
- Ellis, Rod. (1997) *SLA Research and Language Teaching*. Oxford: Oxford University Press.